

「狐狸庵こと遠藤周作の九十歳を祝う展覧会」

遠藤周作は「二十一世紀はどうなる」と題するエッセイで、「人間のみかたも新しい視点が求められつつある」と26年前に書いています。東日本大震災以降、一層心の問題を私たちがさまざまに抱える現代にあって、遠藤作品は心に響く深い言葉として、多くの人びとに読まれ続けています。

遠藤周作は1923年、東京に生れ、幼年期を旧満州大連で過ごし、神戸に帰国後、12歳でカトリックの洗礼を受けました。慶応大学仏文科を卒業後、フランス留学を経て、1955年「白い人」で芥川賞を受賞。一貫して日本人とキリスト教信仰という重いテーマを追求したほか、ユーモア作品、歴史小説も多く手がけました。主な作品は「海と毒薬」「沈黙」「死海のほとり」「イエスの生涯」「侍」「深い河」等。1995年、文化勲章を受章。1996年、73歳で病没。

ユーモア精神に溢れ、遊びの達人でもあった遠藤は、素



『深い河』 1993年6月 講談社
遠藤の文学と人生の集大成となった作品。すべての魂が廻りゆくことができる母なるガンジス河の流れを象徴として魂の救済を描いた。最後の書下ろし長編

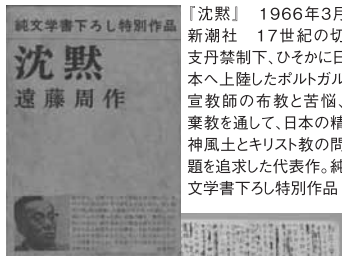
人劇団「樹座」を主宰し、碁の会「宇宙棋院」、コーラスグループ「コールパパス」、「日本キリスト教芸術センター」などを結成、多くの人びとと楽しみを共有しました。遠藤は私たちに、心豊かに生きるとは何か、を問いかけています。

遠藤周作と軽井沢の関わりは1944年、病床の堀辰雄を信濃追分に訪ねたのがはじまりでした。1958年以降は貸別荘で夏を過ごし、1968年以降は新築した別荘で創作活動を続けました。その間、1965年に代表作「沈黙」(原題「日向の匂い」)を六本辻の貸別荘で脱稿しています。

本展は、生きていれば今年90歳の遠藤周作を祝い、今なお多くの読者に愛される作品の魅力、遠藤周作文学館や周作クラブなど没後に見られる遠藤文学の広がりとともにご紹介します。原稿、書簡、書画、遺品など、貴重な資料約250点を展示します。



富ヶ谷の仕事部屋で 1990年6月 撮影・福井勲



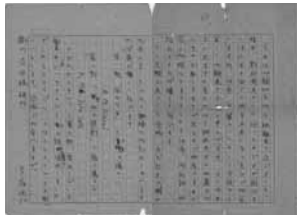
『沈黙』草稿 原稿用紙の裏面に鉛筆でびっしりと書き込まれている。長崎市遠藤周作文学館蔵



(左から)北杜夫、遠藤、矢代静一、加賀乙彦、谷田昌平 1992年8月21日 中軽井沢の割烹「大栴」で



狐狸庵先生還暦のお祝い 1983年3月31日



遠藤周作から掛川長平宛書簡 1947年12月 遠藤は神西清の推薦を受け「堀辰雄論覚書」を1948年3.7.10月の「高原」に発表した。編集担当の掛川へ文中に神西と恩師・佐藤期への献辞の挿入などを依頼した内容。



「夏休み特別企画」

「手紙で見る『福澤山脈』」

会期:8月10日(土)~8月30日(金)

会場:軽井沢タリアセン内、旧朝吹山荘「睡鳩荘」

※見学は無料ですが、軽井沢タリアセン入園料が別途かかります(大人800円、小・中学生400円)。緒方洪庵、福澤諭吉、朝吹英二、益田孝、犬養毅、尾崎行雄、小林一三、藤原銀次郎、吉田茂、佐藤朝ら、慶應義塾に関わりのあった人びとの手紙を展示します。協力軽井沢高原文庫

次回企画展

ふるさと文学さんぽ・軽井沢 10月31日(木)~11月30日(土)

軽井沢高原文庫 〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町塩沢湖202-3
Tel.0267-45-1175 Fax.0267-45-6626 <http://www.karuizawataliesin.com>

交通:交通:JR長野新幹線・軽井沢駅、または、しなの鉄道・中軽井沢駅下車、タクシー約8分。
上信越自動車道・碓氷軽井沢ICより車で約10分。※会期中、次のバスが運行いたしますのでご利用ください。
〈塩沢湖行き急行バス〉7月20日~9月23日「軽井沢駅北口バスターミナル1番」→「塩沢湖」下車(有料400円)
〈軽井沢美術館・観光循環バス〉7月20日~9月23日「軽井沢駅北口バスターミナル1番」→「塩沢湖」下車(有料400円)
〈町内循環バス〉通年「軽井沢駅北口バスターミナル4番」→「塩沢湖」下車(有料200円)

【関連イベント】

高原文庫の会 朗読会 遠藤周作「ルーアンの丘」

Cast:坂本岳大、岩崎大(Studio Life)、矢代朝子
遠藤27歳のフランス留学中、ノルマンディの夏の生活を瑞々しく書き綴ったエッセイ「ルーアンの丘」を、高原の森の中でお届けします。
日時:8月3日(土)13:00~ 会場:当館中庭 定員:180名
料金:3500円
(ガーデンパーティ費・遠藤周作展観覧料含む。但し、友の会会員は2000円)

朗読会 「2度目の夏も美しい!」 —軽井沢演劇部@睡鳩荘

プログラムA:朗読「死の淵の愛と光」
お話 加賀乙彦「死刑囚、正田昭を語る」
8月2日(金)17:00~、8月3日(土)17:30~、8月4日(日)17:00~
プログラムB:ヘルマン・ヘッセ「少年の日の思い出」(岡田朝雄訳)、
遠藤周作「ルーアンの丘」8月4日(日)13:00~
Cast:坂本岳大、岩崎大(Studio Life)、矢代朝子
会場:いずれも軽井沢タリアセン内、旧朝吹山荘「睡鳩荘」
定員:各50名 料金:3500円(自由席、軽井沢タリアセン入園料含む)

高原の文学サロン 「父の思い出」

講師:遠藤龍之介(遠藤周作長男)
幼いころから身近に作家・遠藤周作を見てこられた遠藤龍之介氏に、没後16年余となる現在、あらためて遠藤周作氏について、さまざまな思い出、人柄、軽井沢での夏の生活などを、自由に語っていただきます。
日時:8月24日(土)14:00~ 会場:当館中庭
定員:180名 料金:一般1500円/学生・友の会会員1000円

※朗読会および高原の文学サロンは友の会会員を除き、遠藤周作展観覧には別途入館券が必要です。

※各イベントはいずれも要予約。

Eメール(e-mail:kogenbunko@yahoo.co.jp)、FAX(0267-45-6626)でお申し込みください。

※軽井沢高原文庫主催、軽井沢演劇部の朗読会が8月14,15日、東京都美術館「ルーヴル美術館展—地中海 四千年のものがたり—」関連イベントとして同館講堂で行われます。特別公演「朗読劇『トロイ戦争は起こらない』(ジャン・ジロドゥ作)。

詳細は軽井沢高原文庫ホームページをご参照下さい。

